

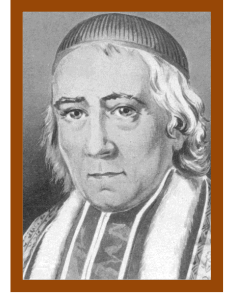
2011年9月

シャミナード年の資料

ギヨーム・ヨゼフ・シャミナード師と共に、新たな戦い！ 新たなミッション！

大変動の時代の中でシャミナード師は、師の形式と方法の中で新しいミッションをどのように適応し、工夫して行くかを承知していました。

「私たちは全く新しくなった世界の真只中にいます。私はフランスにいますが、ほとんど外国にいるみたいなのがします。何をいうべきか、何をなすべきか、もう分からなくなっている状態です。わたくしは、積極的に物事に取り組むよりもじっと待つことにしています。私は聖なるおとめマリアのもとに、毎日馳せ参じる以外の方策は何もありません。」(ララン師への手紙、1831年1月20日。シャミナード師の手紙 II-575)。



「私たちの時代のあらゆる異端に勝利されたお方は、ただ一人、いと尊き母マリアだけであり、大なる栄光が彼女に留保されていること、そして、宗教的無関心を醸し出した現代哲学思想の動きに対する見事な勝利も彼女に留保されていることを教会も私たちも信じています。」(1839年、教会参事会員ヴァレンティニーニへのシャミナード師の手紙 V-1182)。

「以上が私たちの二つの修道会の特異な特徴と家庭の雰囲気です。私たちは、特に世の中の風紀の改革、信仰を保持しそして増大させること、自分の行動を通して隣人を聖なる者にすること等において、いとも聖なるおとめマリアの援助者であり、道具なのです。彼女が、そのほぼ無限の愛徳によって駆り立てられた熱意及び行動の手段を伝えて下さいます。そして、私たちは自分の生涯が果てるまで彼女に忠実に奉仕する誓約をするのです。そして聖なるおとめマリアが私たちに仰せられること、即ち、自分に与えられた命と、彼女への奉仕のために全力を尽くす者は幸いであるということ、几帳面に実行すると誓約するのです。」(黙想の説教者たちへの手紙、1839年8月24日)

「イエスはすべての人間が救われること、すべての人間の心を支配することを望んでおられます。ですから、聖母マリアも同様に、自分の最愛の子イエスはすべての人々を救うために死去されたので、誰ひとり滅びることのないようにと望んでおられます。それ故、彼女の心遣いはすべての人に及んでいるのです。この彼女の手本に鼓吹されて、シャミナード師はひたすらに、いかなる宣教活動にも、またいかなる事業にも限定しようとはされませんでした。師は彼女のご意向のままに活動されました。それは聖母マリアが呼ばれる所ならどこへでも行き、彼女が仰せられることは何でもするという普遍的な心遣いをもって、彼女を常に手助けしたかったからなのです。」

(第4代総長シムレール師の回章71、1896年)

シャミナード師の幾つかの事業

シャミナード師並びにその協力者たちによって運営された事業の多様性には感嘆するばかりです。彼らは時代が必要としていることや、また神の呼びかけに対して、そして更に、その活動の可否に対しても適応して行くだけの優れた手腕があったことも証明しています。ではこれからそれらの事をじっくり見て参りましょう。

信徒共同体の時代

コングレガシオンそれ自体は「**絶え間のない宣教活動**」です：「どのコングレガニストも宣教の活動的なメンバーとならなければなりません」（シャミナード師の手紙 1-52）

「天は、（今世紀初め）、わたしを促して（聖座に教皇派遣宣教師の勅許状を申請させ）、至る所に信仰の松明を再び灯し、驚いたことに、世界のあちこちにあらゆる年齢、あらゆる身分の強力な男女カトリック信徒の集団を示すよう計らわれました。これらの信徒は特別な結社をなして、私たちの聖なる宗教の教義と道徳を謙虚に、世間体を気にせず、見栄を張らずに実践する者たちなのです」。（グレゴリオ XVI 世教皇に宛てた手紙。1076。1838年9月16日）

「フランス革命の大異変以来、分別のある人であれば、世の中の道徳を動かしてきたレバーは、他の挺子をどうしても必要としていると見透かしていない人はいないのではないのでしょうか？新しいコングレガシオンは旧来のものよりも色々な方法とか、可能性とかを提供できるかどうか問題なのです。わたしたちが思い描いていることはまさにそのことなのです。」（ECRITS ET PAROLES 1. 154. 8）

コングレガシオンにおいては、他の人々の信仰を再び目覚めさせるためにメンバー自身の信仰を再活性化させて来ました。ここで、**コングレガシオンが導入した多くの活動の中から幾つかを紹介したい。**

1. 子供たちや大人のためのカテシズム、それは彼らに秘跡を準備させるために。
2. オーベルニュ地方の子供たちにカテシズムと煙突掃除人としての教育。
コングレガニストの一人、アドルフ・デュプシュ師は、アルジェの最初の司教となる前に、先頭に立って煙突掃除の仕事をした。
3. 貧しい人達、病人達、瀕死の人達に住居と入院の世話。
4. 教育する時間を提供する後援活動。
5. 貧しい子供たちへの衣類の支給。
6. 男性群による囚人の訪問。
7. 職業としてではなく宗教的な観点から設立したパン屋の結社。
8. 1817年ボルドーでのミッションの延長としての年の黙想。

マドレーヌのコングレガシオンをたびたび真似たコングレガニスト達によって導入された事業



1. 回心した売春婦たちのために、**ミゼリコルド会**の事業。マリーテレーズ・デ・ラムルスは1810年1月2日にこの会の責任者となった。シャミナード師は6年前から彼女の霊的指導者でした。3月25日、聖母マリアに自己奉献した9名の若い婦人達の一人として、彼女は信徒のコングレガシオンの中に女子の枝を創立した。1813年からミゼリコルド会は、修道的コングレガシオンの組織へと進展します。
2. **シャルトロン（ボルドーのサンルイ小教区）のコングレガシオン**。コングレガニストで、司祭であったリガノン神父が組織した。
3. **キリスト教信徒友の会**。コングレガニストであったマルトゥグット神父によってセント・ユウラリー小教区に組織されたもので、文化的なグループ。ピエール・ビアンヴニュ・ノアーユ氏はこの組織のメンバーの一人であった。彼は後にボルドーに聖家族のコングレガシオンを創設した。
4. **志願者達の小教区単位のグループ**（12歳から16歳までの若人）。サントクロア小教区のそれは、コングレガニストで労働者であったアントアヌ・カントー氏によって活気づけられていた。彼は後にマリアニストとなった。
5. **知恵（Sagesse）の友の会**。コングレガニストで司祭であったアルマン・ジヌー神父が軸となって、学校の休暇中に集結した寄宿学校生徒達のグループです。ジヌー神父は後にボーベの司教となった。
6. **良書の会**。ジュリアン・バロー神父によって発案された貸し本図書館。1820年から、その活動はシャミナード師に認められコングレガニスト達にも支持された。1852年から1870年まではマドレーヌに間借りしていた。



← ボルドーのサントクロア教会

内面的献身を重視するグループ

1809年から1814年の間、ナポレオンによってコングレガシオンは弾圧されていたが、この間にコングレガシオンは発展していった。今日の在俗修道会と共通するものがあつた。一般にはこのグループはコングレガシオンの他のメンバーには知られず秘密にされていたが、修道的コングレガシオンが創立されてからは、徐々に姿を消していった。

若い女性たちの所では

1. マリア様の10（或いは12）の**諸徳を讃える集会**。
2. マリア様を**永続的に崇敬する結社**。マリア様への永続的な愛を表明するためにメンバーは一週

間を一時間毎に区切ってマリア様の諸徳を黙想し模倣した。

若い男性たちの所では

1. **コングレガシオンのセンター**に密かに集まり私的誓願を宣立し、グループの成聖に努めた。
2. 上に述べた継続としての**修道的エタ** (Etat)。修道的エタは、「貞潔、従順および若者たちの救霊のために献身するという三誓願を宣立した。」(EP 1. 127. 1)。「**靈魂の救いへの熱誠はエタの特別な目的とされていた**」。エタは特に若者たちに向けての指導並びにコングレガシオンの維持、その増加、完成の域に達するようにと活動した。(EP 1. 128. 5)

若い婦人たちの所では

1. 未亡人や30歳以上の者は三つの誓願：貞潔、従順、コングレガシオンへの忠誠を誓約することが出来る。コングレガシオンへの忠誠はコングレガシオンに堅忍する誓約を含んでいる。(EP 1. 131. 1)
2. 女子マリア会修道女たちの在俗第三会は信徒コングレガシオンへの奉仕に熱心なコングレガニストたちと一緒に、1817年アジャンで創立された。

修道会（の創立）

1. 1816年5月25日、アジャンでアデルと三名の友人達と女子マリア会最初の共同体を創設します。「愛すべき計画」は、永い時間の経過の中でアデルとシャミナード師との間の書簡のやり取りがなされ、機が熟するのを待って終に実現したのです。
2. 1817年10月2日、ジャン・バプティスト・ラランと他の4名のコングレガニスト達は新しい修道会を創立するためにシャミナード師に我が身を委ねました。こうして**マリア会**が誕生したのです。

彼らの宣教活動は多種多様であった

1. **信徒コングレガニストへの奉仕**。誕生して間もない二つの修道的コングレガシオンの初めての活動は、信徒コングレガシオンの枝の発展をサポートすることでした。彼らは、キリスト教信徒の友の会、良書の会、オーベルニュ地方の子供たちの教育といった事業に協力した。
2. **小学校と中学校の教育活動**。すでに信徒コングレガニストによって実施されていて、シスター達とフレール達がこの事業に当初から、そして幾つかの場所に学校が増えたので専念することになった。ギヨーム・ヨゼフ・シャミナード師は1836年の手紙の中に「誕生する世代の子供たちの教育をもしもゆるがせにするなら、どのような手段で都市を再生することが出来るでしょうか」(シャミナード師の手紙 IV-914)と述べています。
3. **師範学校**。二校だけ誕生。1830年の革命が、創立者の目論んでいた計画の継続を妨害したのです。その計画とはフランス全土の再キリスト教化をこの師範学校のネットワークを利用して企てたのです。即ち、「善徳と宗教に生徒たちの心を惹きつける」ことを教師たちに学ばせることによってそれを実現させようとするものだったのです。「**私たちの目指す目的、それは、キリスト教信徒を増加させること、善徳の原則を至る所に広げることなのです。**」と創立者は述べてお

られます。

4. **地方での福音宣教。** 1836年オーシュ（フランスの南西部）に女子マリア会の正規の第三会が創立されたお陰で、地方にも福音宣教が実現しました。
5. **農業と技術教育。** 地方の環境の中に生活している青少年の職業教育、人間教育そしてキリスト教的教育の重大な必要性に応えるためのものです。

わたしたちを狂喜させる遺産！

「私たちのすべての事業の原点にさかのぼればシャミナード師の名前が筆頭に記されている。」（ドネ枢機卿：1837～1882年ボルドーの大司教）



ヨハネ・パウロ二世教皇の言葉

「シャミナード神父が体験したような混乱の時代に、時のしるしを読みとることはとても困難であったかも知れません。けれども、シャミナード師は時が必要としていること、そしてその必要の度合を認識するのに非凡な能力を具えていたことが分かります。ただ単に革命の蜂起に対峙するだけではなく、宗教的無関心という、ややドラマティックな要素には欠けるが、人々の心からキリスト教信仰を弱体化させる革命に匹敵する危険な脅威にも晒されていたのです。然しながら、あなたがたの創立者シャミナード師は真実の聖性の中に根源をもつ勇敢さと使徒的想像性に富む資質を証しされました。」（2001年7月7日）

「マリアニスト家族の創立者、ギヨーム・ヨゼフ・シャミナード師の列福は私たち信徒達に、自分たちは信仰の証人としての新しいマニュアルを絶えず考え出すべきであること、とりわけ、教会から遠ざかっている者たちや、キリストを絶えず意識させる手立てを持たない者たちを、もう一度教会に呼び戻さなければならないことを想起させます。ギヨーム・ヨゼフ・シャミナード師は各々の信徒に、洗礼に根ざして生きること、主イエスと一致すること、聖霊との交わりを持つことを勧めておられます。」（2000年9月3日）

祝うべき月日

- 09月03日。シャミナード師の11回目の列福式の記念日（2000年）。
- 09月05日。使徒の元后聖マリアの祝日。1818年9月5日、最初のマリア会員たちが初誓願を宣立した日。
- 09月12日。聖マリアの御名の祝日。マリア会の保護の祝日。